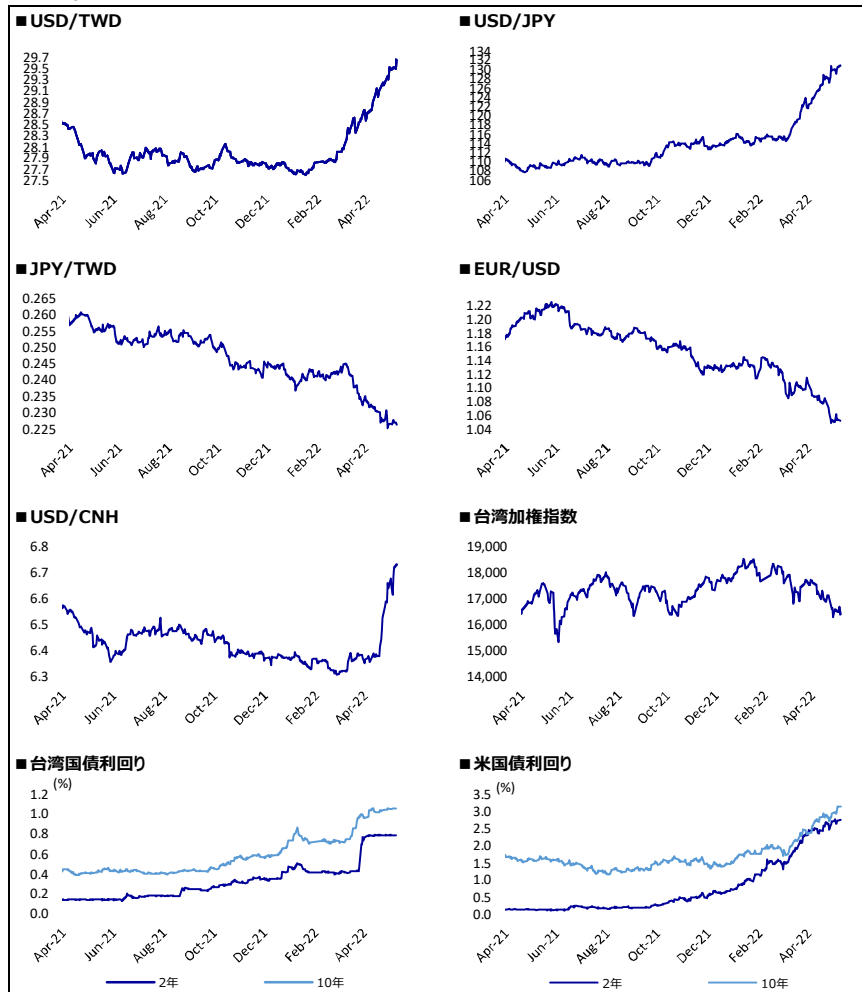


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇し、約2年ぶりの水準に。連休明けの週初5/3は29.530でオープン後、FOMCを控えて様子見ムードが強く29.52付近のレンジで推移し、5/4も同水準の動意に乏しい展開となった。5/5はFOMC後のパウエルFRB議長の会見で、0.75%の利上げに否定的だったことを受けて、米金利が低下したため、外資が流入し、一時29.438まで下落。しかし、割安になったドルに輸入企業等から買いが入ったため、下げ幅は縮小した。5/6は一転して米国のインフレを警戒した米金利の上昇を受けて、台湾株安となり、ドル台湾ドルは1年11か月ぶりの29.724まで上昇。その後は調整もあり、29.70付近での推移が続いたが、最終的に先週比0.6%ドル高台湾ドル安の29.660で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は193.5億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初5/2は129.69でオープン後、130円ちょうを挟んでもみ合い推移していたが、FOMCを控え警戒感から130円台半ばまで上昇する場面も見られた。5/3もFOMCを前に様子見ムードから同水準のレンジでの推移が続いた。5/4は注目のFOMCでは予想通り0.5%の利上げと6月からの量的引き締めを決定。パウエルFRB議長の会見では、次回回数の会合で0.5%の追加利上げを巡り検討する見通しとしつつも、0.75%の利上げ幅については積極的に検討しているものではないと述べたことから、市場参加者の一部では0.75%の利上げを予想していたため、米金利の低下とともにドル円も下落し、一時128.62まで低下。一巡後は買い戻され129円台前半まで戻した。5/5は特段材料がないものの、改めて早期利上げのペースが意識されたのか、米金利が急上昇し、米10年債の利回りが約3年半ぶりに3.1%を上抜けるとドル円も130円台半ばまで上昇。5/6には一時130.80をつけたが、米雇用統計の発表を控え様子見ムードとなり、130円台半ばの狭いレンジで推移。米雇用統計では、非農業部門雇用者数変化が予想を上回ったことや、平均時給が予想を下回ったものの前回分が上方修正されたことやもあり、引き続き労働市場の需給が逼迫していることが確認され、米金利の上昇と共に130円台後半まで上昇。しかし、その後は利益確定の動きもあり、最終的に先週比0.5%ドル高円安の130.53で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：29.500-29.850
足許の米金利の上昇につられて台湾ドル安の流れが続いている。今週は米CPIの発表も控えており、引き続き台湾ドルが売られる展開に警戒したい。

■ USD/JPY 予想レンジ：129.50-133.00
今週は米CPIの発表を控えている。FOMCでは0.75%の利上げが否定されたが、引き続き0.5%の利上げが複数回続くと思われることから金利の上昇への警戒感は依然強く、CPIが強い場合は直近高値を試す展開となるであろう。

今週の予定

5/9 (MON)	台湾4月貿易収支
5/10 (TUE)	
5/11 (WED)	米4月CPI
5/12 (THU)	米4月PPI
5/13 (FRI)	米5月ミシガン大消費者信頼感指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。